

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2019年
11月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

死について考えることは…

司祭 ペテロ 中原 康貴



ください。死は決して恐ろしいものではなく、天国へ行くために、誰もが必ず通らなければならない扉のようなものです。皆さん、死んだら天国ですよ」

講話が終わって質

ある高齢者福祉施設の入居者とスタッフを対象にした講話で、こんなことを話しました。

「私たちの未来は何歳になっても不確かなことばかり。しかし、そんな未来について、一つだけ確かなことがあります。それは私たちが『いつかは死ぬ』ということです。これに例外はありません。でも、安心して

疑応答の時間を迎えると、ある入居者がこう嘆息しました。

「私もあなたと同じクリスチャンで、死んだら天国だと信じています。けれども、周りの人からは『あまり天国、天国と言わないでほしい。死ぬことを口にしないでほしい』と言われるので

こう言うては何ですが、

近々、天国に入ろうとしている多くの方が、死を恐れている。それはなんと辛く、悲しいことでしょうか。必ず訪れると分かっている死が間近に迫っているにもかかわらず、多くの人がそれを受け入れられないのである。これが日本の現状なのだと言いました。

その後、何人かのスタッフと一緒に食事をしていると、あるスタッフに尋ねられました。

「これまで、死を恐れている入居者にどう言っていましたか、何度も悩みました。私も、これからはあなたのように『死を恐れなくていい。死んだら天国』と言ってもいいでしょうか」

そこで、私は答えました。「言ってもいいと思いますよ、あなたがそのことを本当に信じているのであれば。でも、中途半端な気持ち

ちでは言わない方がいいですよ」

すると、そのスタッフはちよつと戸惑った表情をしていました。

大学時代、恩師は事ある毎に、私たちに言いました。「死について考えることは、生について考えることです」

この言葉を受けて、私は死について長く考えました。「死について考え続けたら、司祭となっていた」と言っても過言ではありません。しかし司祭になっても、すぐには「安心してください。死んだら天国ですよ」と言えませんでした。こう言えるようになるまでに

は、多くの方々の終末期を牧師としてご一緒させて頂き、ご家族と一緒に見送る必要があったのです。そして、そうした関わりの積み重ねを経て、「死んだら天国」ということが、次第に私の中で疑う余地のない真実・福音となったのでした。

二年前、実家で父の葬儀を家族だけで行いました。

それが父や家族の希望でした。その葬儀で私は聖餐式をささげ、家族にこう話しました。

「これからもボクたちはこの御聖体を頂くことを通して、祖父ちゃんと一つとなる。大丈夫、今はよく分かんなくても、いつか分かるようになる。今は信じられなくても、みんなが信じられるようになるまで、ボクがみんなの分も信じ、祈る。御聖体を頂くことを通して一つとなる。今、このことを誰よりもよく分かっているのは、天国の祖父ちゃんだ」

父を見送ってからは、それまで以上に、このことを強く感じています。

わたしたちがあなたの聖なる賜物に与るとき、聖霊を降し、世にある者も世を去った者も、すべての人を一つの体とし、聖霊を満たしてください。

(祈祷書一七九頁)

11月は「死者の月」と言われています。是非、死について考えてみてください。

(聖公会神学院特別研修生)

教会のお葬式Q&A

広報部では、今年1月から「教会のお葬式Q&A」と題して、読者の皆様に教会のお葬式についての質問を呼びかけました。多数の質問が寄せられました。ありがとうございます。今回は2つのご質問にお答え致します。11月は、教会の暦で「死者の月」とも呼ばれています。私たちがいざ迎えるその時のためにお役に立てれば幸いです。

Q1. 「学生時代に洗礼を受け、遠方なこともあり教会へ行けず、奉仕もできていないが教会でお葬式を挙げたいだけなのか」

A. 最近「終活」(「人生の終わりについて考える活動」を略した造語)や「エンディングノート」という言葉をよく聞くようになり、自分の死と向き合う終活思想が浸透しつつあります。しかし、そのような時代になっ

ても自分の死や、死後、お葬式については、不安や恐れをもっておられる信徒の方は多いのではないのでしょうか。

ご質問に對しまして、まず「信徒」とは何であるかという定義を見ていきたいと思ひます。『日本聖公会法憲法規』の中の「第6章信徒第56条(信徒)」では、日本聖公会または他の聖公会の祈禱書によつて洗礼を受けた者を、信徒とすると明記されています。

次に聖公会のお葬式を『日本聖公会祈禱書』の「葬送の式」の項目を見えますと、最初のルブリック(礼拝式文の指圖書、あるいは礼拝中の動作の指示文)に「わたしたちはこの式によつて、世を去つた信徒を主の御手に委ね、終わりの日の復活の喜びを待ち望みつつ、愛と感謝の交わりを共にするものである」と記述されていま

す。同様に『葬送の儀 逝去者のため』(監修吉田雅人、森紀旦 聖公会出版)の式文「葬送式」の項目でも同じ文で記載されています。

式文では「この式によつて、世を去つた信徒」と書かれてあることから、聖公会の信徒として、たとえ教会に行けなくても、奉仕ができていなくても、お葬式を挙げる事ができるといふ結論になります。

『日本聖公会祈禱書』ではキリスト教信仰者のゆりかごから墓場まで(「誕生感謝の祈り」から「葬送式」や「逝去者記念」まで)の祈りが含まれていますので、教会として誕生から人生の最期まで面倒を見させていただくということになります。

以上の点からご質問に對して、聖公会においては信徒の方はお葬式を挙げられるというところをお答えとさせていただきます。

(回答者・司祭平野一郎)

Q2. 「キリスト教でお葬式を行った場合、先祖の墓石

に戒名ではなく俗名だけ記入できるのか。」

A. そもそも「戒名」とは、何でしょうか。「戒名」とは本来、仏門に入った証、戒律を守る印として与えられるものと言われています。

宗派によつては法名、法号という名称が使われていることがありますが、いずれもいわゆる出家をした修道者に對して師である僧から与えられるもので、一般人が授かれるものではありません。しかし今日では、儀式や講習を受けた人たちにも与えられるようになってきたようですし、仏式のお葬式の際に故人の冥福を祈つて僧侶から与えられるものという認識が定着しています。これは、亡くなった人は仏の弟子になることから、生前に仏門に入っていないけれども、お葬式のときに戒名を与え、故人を仏弟子として仏のもとへ送り出すという意味合いもあるようです。

洗礼名については、洗礼

を受けるときにつけられる名前のことで、各教派によつても名称が変わります。プロテスタント諸教派では、洗礼名を用いないところがあります。

これは実例ですが、以前勤務していた教会で、「〇〇家の墓地」の隣に墓標を立てて、その家の一人だけ信徒の方がおられ、「+マリア〇〇〇〇」という記名を見かけたことがあります。なぜそのような記名をされたのか、知り合ひの信徒の方を通してお尋ねしてみますと、ご本人の信仰があり、お葬式もキリスト教で行つたと伺いました。その方が亡くなられたのは大正時代のことで、しかも偏見が感じられる土壌の中で、このお宅では、ご本人の信仰を尊重されたのだと感銘を受けました。

従いまして、家族・寺社との相談で、相手のご理解を求められることが良いのではないかと思います。ご参考になれば幸いです。

(回答者 司祭 河村博之)

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『フィリピンワークキャンプ』

1998年のランベス会議の決議を受け、九州教区では、2001年からフィリピン中央教区との協働を始められ、その一環として、2004年からフィリピンワークキャンプがスタートします。2011年からは、神戸教区もお誘いを受けまして参加するようになり、2013年から九州、沖縄、神戸の三教区合同のプログラムとして行われてきました。

神戸から参加した青年たちの良い体験を聞くたびに、うまく育てたいプログラムと考えていました。ところが、九州教区が参加者の減少によって、今年2月のキャンプで参加を取りやめることになり、どうしようかと考えていましたが、中央教区のレイエス主教様の按手式に昨年6月に出席させて頂きましたし、遠藤雅己司祭に仲介をしていただいて、同主教様の支援の約束を頂き、常置委員会の

承認を得て、キャンプを続けることができるようになりました。

『参加者の声』

「二年目、初めてのフィリピンの地で右も左も分からない中でしたが、フィリピンの人々の人柄の温かさや人生の楽しみ方に触れて、日本社会ではまず味わえないような経験をたくさんすることができました。また、それほど文化や風習が異なる社会においても、聖公会の教会での礼拝様式が共通であること、聖公会に連なるたくさん仲間がいることに、感銘を受けたことを憶えています」(また2年目、3年目の経験を踏まえて)

「教会と地域との交わり、教会における社会活動の可能性、福音宣教の本質について等々、本当に多くのことを考えさせられました。これらの経験は、現在、大学における私の神学についての学びや、私の通っている〇〇教会における地域の小学生との関わり方にも大きな影響を与えていると思います。」とキャンプの感想を書いてくれています。

このキャンプを神戸教区で続けていこうと思えます。神戸教区に連なる子どもたちが、フィリピンワークキャンプを通して成長していけるようにお祈りを願います。(神戸教区主教)

召命黙想会開催

「我、使命を黙想す」

去る9月3日(火)〜5日(木)に宝塚黙想の家で召命黙想会が行われました。今回、初めての体験で全てが新鮮でした。まず、宝塚黙想の家について。元々カトリックの建物ということ

で、どのようなものか想像もつかなかったのですが、日本家屋の綺麗な場所、中庭や庭園も和風。その中でいたるところにイエス様やマリア様の絵画であったり、木彫りの絵があつたりと、和洋折衷な部分に驚きました。

西洋の教会の面影を残しつつも日本の文化を大事にする、という、日本人の心根を感じました。

今回の黙想会では、林和広司祭(高知聖パウロ教会牧師)が「神の器となるため」という主題で、ご自身の体験を含めてお話をしてください

いました。参加された皆様も熱心に筆をとり、神学、聖職に関しての心意気、意識の高さを感じました。

私は一信徒であり、ただ興味がある、けれども聖職になりたいという程度で参加したわけですが、本当に私のような若輩者が参加すべきだったのかを考えさせられるほどの熱意と空気でした。

「黙想とは自らの内面に深く沈思し、故人や神や自分の信じる信仰における絶対的な存在と触れ合い、故人への思いや人生、生きることの意味について思いをめぐらす行為」とあります。

施設内では「沈黙」の紙が貼られ、普段からお喋りな私にとって初日は苦痛でした。

しかし、2日目からはその意識も変わり、「神様は私に何を望んでおられるのだろうか?」というテーマで、気が付けば黙々と時間を過ごしていました。ルターの

生涯に関する本を読みながら、私の場合「今私が生きているのは神が使命を与えて下さっているから。しかしそれは何か?」と、模索していた訳ですが、3日という短い期間では答えは得られません。

ですが、「分からないなりに思い巡らし、主に委ねる」ことの大切さを覚えませんでした。

今回の黙想会で得た感覚、知識を活かし、日常生活の中でも黙想をする時間を取っていきたいと思いました。主の平和。



松本俊悟・神戸昇天教会信徒

鳩だより 《敬称略》

祝洗礼

9月8日(日) マリア南 花野
グレース坂本 修子
米子聖ニコラス教会

初陪餐

9月8日(日) マリア南 花野
グレース坂本 修子
米子聖ニコラス教会

ご逝去

9月20日(金) ベタニヤのマリア
小南 鈴子
姫路顕栄教会

9月21日(土) マグダラのマリヤ

山口まさ
徳島インマヌエル教会

教籍移動

10月1日(火) ルツ末 永 壽美代
ジョイス末 永 泉
エバンゼリー荒川 望
高松聖ヤコブ教会より
明石聖マリア・マグダレン教会へ

山陰伝道区

◎伝道区修養会を松江で開催
去る10月5日(土)〜6日(日)に、松江基督教会を会場に山陰伝道区修養会が行なわれました。今年、山野上素充司祭(大阪教区退職)を講師にお迎え

12月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2019年12月5日(木)午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 杉野 達也

*12月の記念逝去教役者

2日	主教	チャニング	ウイリアムズ
2日	司祭	ヨハネ	長壽 泉
5日	伝道師	森	慶三
5日	司祭	テモテ	岩井 祐彦
7日	伝道師		武田 頼夫
10日	司祭	パウロ	島田 信
10日	伝道師	パウロ	大石 虎太郎
14日	宣教師	イブリン	プレストン
14日	司祭		水野 功
14日	司祭	ペテロ	貫 主税
16日	司祭		尾形 虎三
19日	宣教師	マリー	ホームズ
20日	宣教師	ハナ	スコット
21日	司祭	ペテロ	加藤 九十九
25日	伝道師	マリヤ	永沼 輝子
29日	司祭	マルコ	伊墻 八東
30日	宣教師	オードリー	ヘンテ
31日	司祭	マルコ	杉野 貢



して「信仰の伝承」というテーマで講演と6日の主日礼拝での説教をしていただきました。6日には、伝道区合同礼拝が同教会で行なわれ、約40名の方々が参加されました。また礼拝後には、伝道区会が開かれまし

公 示

日本聖公会神戸教区第89(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2019年9月1日
日本聖公会神戸教区 教区会議長
主教 オーガスチン 小林尚明

記

第89(定期)教区会
日時：2019年11月23日(土・祝)
午前9時から午後5時まで
場所：神戸聖ミカエル大聖堂
本教区会を招集するにあたり、書記を下記のように任命します。

司祭 バルナバ 瀬山会治
司祭 セバスチャン 浪花朋久



収穫感謝献金のお願い

奉献先：下関聖フランシス・ザビエル教会
募金額：150万円

同教会は、礼拝堂補修事業費用600万円の内
の補助として申請しています。皆様のご理解と
ご協力をお願い致します。

11月17日(日)までに教会でお届けくださり、
23日(土)の教区会でお届けください。